

評議員会議長就任 にあたって

日本公認会計士協会相談役（前会長）

やまざき しょうぞう
山崎 彰三



この度、財務会計基準機構（FASF）の評議員会議長の大役をお引き受けすることになりました。関係する皆様のご支援、ご協力をお願いするところです。

さて、わが国の会計基準設定も新しい段階を迎えております。去る6月の企業会計審議会において「国際会計基準（IFRS）への対応のあり方に関する当面の方針」が決定され、国際財務報告基準（IFRS）の任意適用の拡大のための方針が示されました。エンドースメントの新しい方向性も示され、企業会計基準委員会（ASBJ）にエンドースメントのための検討を行うことが求められました。

そもそも ASBJ は 2001 年に、わが国における IFRS への対応に備えて、企業会計基準の設定能力を強化するために組織されたものであり、FASF はこの ASBJ の活動を支える組織的基盤として設けられたものです。爾来 FASF と ASBJ は、一貫して国際会計基準審議会（IASB）やその他の関係者にわが国の考え方を発信すると共に、会計基準の開発及びコンバージェンスに尽力してきました。民間における会計基準設定という、往時は至難のことと思われていたことが実現され、加えて、手の届かないほど隔絶したものと感じていた、例えば米国財務会計基準審議会（FASB）の基準開発能力にも幾分か近づきつつある現状に感慨を覚えます。この間の関

係者のご支援に深く感謝すると同時に ASBJ や FASF の皆様のご苦勞には、会計に関係する者の一人として敬意を表するものであります。

IFRS の任意適用を通じて、IFRS 開発プロセスに対するわが国の発言力は維持できるものと期待できますが、さらに進んで、国際的な会計基準プロセスにわが国の意見を反映させるということは、実はそれほど容易なことではないと思われれます。わが国にとって当然と思われる考えも、他国にとっては到底受け入れることができないものであるかもしれません。例えば、わが国としてエンドースメントを行わない分野があるという事情を国際的に受け入れてもらうためには、様々な異なる見方が存在する議論の場において、多方面に納得してもらえるための理論的かつ客観的な根拠が必要になるでしょう。今後 ASBJ にはこのためのさらなるご苦勞をおかけすることになります。また今まで以上に作成者や利用者、監査人の協力もお願いせざるを得ません。

わが国の会計基準設定は、新しい時代に入ったということが出来ます。これからの ASBJ には、新しい経済事象に対する会計基準の開発や、今まで対象としていなかった分野における会計基準の設定に関する係わりを期待されることもあるでしょう。新しい時代を迎えて、関係する皆様のご支援、ご協力を重ねてお願いいたします。